

新年のご挨拶

特定非営利活動法人 亀っ子サポート
理事長 榎谷 英一

明けましておめでとうございます。皆様には、ご健勝にて新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

本年は、能登地方を襲った地震と津波という暗いニュースで始まりました。被災された方々に深い哀悼の意を表するとともに、一日も早い復興を祈念しております。

さて本会は、令和3年9月から、亀山市教育委員会の子ども（不登校児童生徒）居場所事業を受託し、「フリースペースかめっこ」を運営してまいりました。昨年12月末現在の利用登録者数は、13名となっています。その中で放課後に学習支援を希望する児童生徒が4名（2家族）在籍しており、1月からは1名増えて5名（2家族）が、通級しています。またスタッフは、ボランティアスタッフ19名

（指導員4名、スタッフ15名）で活動しています。今後も皆様方のご理解ご協力をいただきながら、円滑な運営を進める所存ですので、よろしくお願い申し上げます。



スタッフが「フリースペースかめっこ」に飾ったものです



「考え合おう不登校引きこもり冬の対話集会」の中で(2)

十二月十六日（土）午後1時半より亀山市社会福祉センター三階集会所において開催した対話集会のアンケートの中で、「今日の対話集会の感想を聞かせてください」という設問について、いただいたご意見を集約して載せます。

・ 当事者、経験者の話が直接聞けるのはありがたいこと。よく伝わってくるし課題も見えてくる。本人はつらい胸の内、苦しいとも思いました。

・ 「自分から行動する力」が蓄えられるまで、焦らずに見守る。寄り添う、一緒に考えることが大切だと思いました。また本人の気持ち第一に考えた教師、保護者間の

コミュニケーションもやはり重要だと思いました。

・ 当事者、先生、学校関係者、親、様々な立場の方とお話ができるのが素晴らしい。子どもも親も先生もみんな不安を抱えてる。だからお互いに考えていることを話し合うことから始める。いつも共感感謝

・ 亀山の進め方がわかって大変よかったです。社協さんに期待します。ネットワーク、寄りそい支援をお願いします。

・ 福祉との連携、今とても大切なことだと感じた。教育の場だけでは難しいことがたくさんあるので

・ 講義で「自立は、依存先を多様化する事」という言葉が印象に残り、子どもが困った時に、頼れる、頼めるところができるようになってほしいと思った。

・ 当事者さんからは、ひきこもりの原因がないと聞き、それぞれ当事者さんも苦しい気持ちを抱えていることを今まで以上に感じました。

・ 福祉や学校、教委が手厚い仕組みを作ろうとしていることがよくわかりました。個々人の熱意だけでなく社会全体の理解が進みますように

・ 現場の先生や地域のひとと話せてよかったです。学校にももっといろいろな人が関わってもらえるといいなと思いました。